

獣害の歴史

旧石器時代、現代まで、人々は野生動物とどのように関わってきたかを年代を追って、検証していききたいと思います。

石器時代

日本における農業の始まりは、かつては弥生時代からだというのが通説でありましたが、縄文時代、既に農業が営まれていたことが明らかになってきました。

旧石器時代

野生獣と人間の攻防の歴史を振り返ると、石器時代ではナウマンゾウやオオツノシカなど大型獣と食うか食われるかの世界で生きてきたのです。しかし、ナウマンゾウなどの大型動物は旧石器時代（約3万年前）に絶滅。縄文時代はシカやイノシシ、ウサギなど中・

小型動物が狩猟の対象となり、狩猟方法も新しい技術が取り入れられていきます。旧石器時代と新石器時代の違いは使われていた石器により区分されています。約3万8000年前、大陸の多くは厚い氷や雪におおわれて、海面が今よりも100m以上も低く、日本列島と大陸は陸続で、私たちの祖先がナウマンゾウやオオツノシカなどの大型動物とともに、大陸から日本列島に渡来してきたと考えられています。その渡来ルートは、朝鮮半島から対馬を経て北部九州へ至るルート、台湾・琉球列島を島伝いに北上するルート、大陸の北側からサハ

した。石器時代の日本列島は、「最終氷期」と呼ばれていて現代よりもはるかに寒冷な環境だったのです。石器時代の人々は、最も寒かった「最終氷期時代」を狩猟を生活の糧として生き抜いてきた民族なのです。約3万8000年前、大陸の多くは厚い氷や雪におおわれて、海面が今よりも100m以上も低く、日本列島と大陸は陸続で、私たちの祖先がナウマンゾウやオオツノシカなどの大型動物とともに、大陸から日本列島に渡来してきたと考えられています。その渡来ルートは、朝鮮半島から対馬を経て北部九州へ至るルート、台湾・琉球列島を島伝いに北上するルート、大陸の北側からサハ

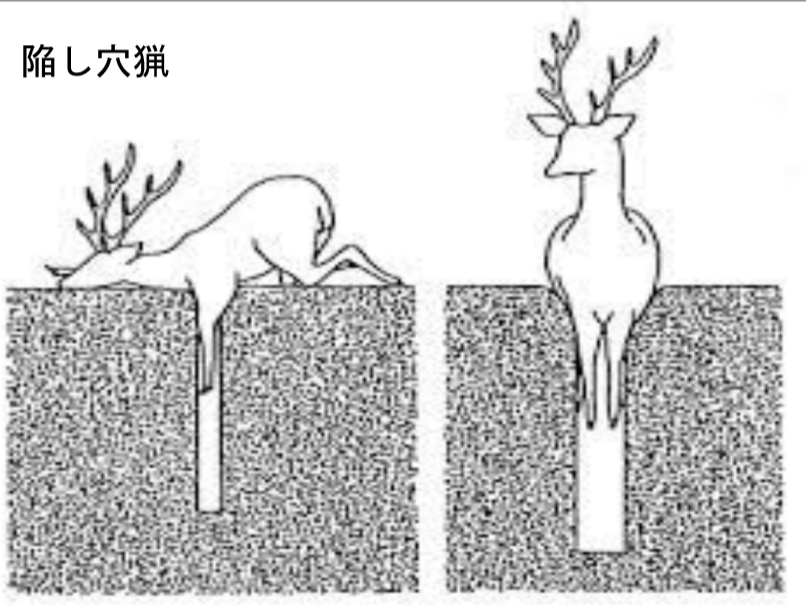


旧石器時代の大型獣と石器の広がり
榎原考古学館 HPより

新石器時代
新石器時代
磨製石器
(石を磨いて
つくった石器)
が使われてい

活の柱に野生動物を求めて、洞窟や岩陰を住居とし広域を移動する生活を行っていました。「狩猟・採集」生活に入るの、もう少し先の縄文時代になります。

ナウマンゾウ絶滅
野生獣と人間の攻防の歴史を振り返ると、石器時代ではナウマンゾウやオオツノシカなど大型獣と食うか食われるかの世界で生きてきたのです。しかし、ナウマンゾウなどの大



型動物は徐々に絶滅の道をたどり、約3万年に絶滅しています。絶滅の理由としては、人間による乱獲や、温暖化現象による棲息環境の悪化などが考えられています。ナウマンゾウなど大型動物絶滅後は、シカやイノシシ、ウサギなど中・小型動物が狩猟の対象となり、狩猟方法も「陥し穴罠」や小動物の俊敏な動きに対応できる弓矢の発明など新しい技術が取り入れられました。



熊祭
東京国立博物館所蔵

縄文時代

旧石器時代の人口は、前期12万5千人、同中期100〜120万人、同後期220〜300万人。時代が進むにつれ、人口増加にもともなう食糧危機に直面して食糧を計画的に生産し確保する農耕・牧畜が始まったのは、縄文時代から弥生時代にはいつからになります。

稲作文化と狩猟文化
日本文化を特徴づけるのは稲作文化だとい

う説がありますが、しかし、人類の歴史500万年の間で、人類が狩猟で果たした役割は大きなものがあり、稲作文化と平行し狩猟文化は、東北地方のマガビの世界で連綿と受け継がれ、狩猟した獲物の解体の作法や、獲物の供養、解体後の鎮魂儀礼など色濃く残っています。また、アイヌ民族に「熊祭」（イオマンテ）という行事のあることが広く知られていますが、これも熊に対する鎮魂の儀礼です。その精神は、現代のアイヌ文化に類似点を見受けるところができます。

稲作定着
縄文時代後期に九州北部で始まった稲

定住生活
狩猟・採集を基本とする遊牧生活は石器時代後期まで続いてきましたが、食糧は採集から生産する時代へと転換をした縄文時代は、定住生活へと移行し、農業に必要な治水、灌



石器時代弓矢は使われていた
多賀歴史研究所hpより

農業に必要な治水、灌



復元した竪穴住居
丸山遺跡HP引用

縄文時代草創期は、氷期から温暖な気候へと変わりつつある時代で、温暖化によって暖かくなり雨が多くなつた大地では、落葉広葉樹の森が生まれ木の実に

人間活動の影響

縄文時代の住居は竪穴式で平均面積は20㎡程度であり、4〜5人ほどの家族が住まいしていました。このような竪穴住居4〜5棟で、一つのムラができ、中央の広場を囲むように住居が建てられていたというのが当時の一般的な風景です。

澁などの共同作業のために、ムラが構成され、それを統率する首長があらわれました。ムラ同士は戦ったり、協力したりしながら、より大きなムラになりやがて小さな国になっていきました。これが日本という国家の始まりです。

を裏らせるようになり、氷河期にいた大型の動物にかわって、サルやシカ・イノシシなどが姿を見せるようになりました。また、かつて草原だった土地は、氷山の溶解により浅い海になり、魚や貝などの姿が目立ち始め縄文人の生活の中に魚介類や海藻を捕獲・収穫する漁労という仕事が増えました。

縄文時代は江戸時代先人は、主要な野生動物の分布域や個体数を減少させることなく、先住者である野生動物と日本列島の豊かな森の恵みを共有しながら、多様な関わりをもち共存の歴史を築いてきたのです。

しかし、近代に入り科学、技術の進歩と相まって、人間の経済活動が自然環境に大きな負荷を与えています。それが現代地球上で起きている大きな環境問題の一つです。

題の原因につながっています。地球規模で広がる温暖化による気候変動。また、100万種の動植物が人間の開発行為が影響して絶滅の危機にさらされているといわれています。さらに、野生鳥獣による農林業被害など、現代社会に深刻な問題を引き起こしている鳥獣害も、その一つとされています。



火焰型土器

縄文時代草創期は、石器時代からの長期狩猟活動で、いずれの個体数も大幅に減少していました。縄文人は狩猟をひかえ、減少したシカ・イノシシの増殖を待つなど貴重な動物資源としてのシカ・イノシシを、適正に管理し共存してきたのです。

地球上に生息する生き物は、人間を含め自然環境を構成する重要な要素の一つであり、全ての生き物の生存の基盤です。

縄文時代、その火を利用して土器が作られました。土から水の漏れない土器を作り出したという事は画期的なこと、人類が初めて手にした化学変化を利用した初めての産物でもありました。

縄文時代、その火を利用して土器が作られました。土から水の漏れない土器を作り出したという事は画期的なこと、人類が初めて手にした化学変化を利用した初めての産物でもありました。

縄文時代の信仰は、主に狩猟・漁猟・採集生活を基盤としていて、特に自然環境には大きな影響を受けていました。原始的な農耕では、風や雨、日照りなど自然災害や病虫害には無力に近く、人々は神霊に助けを求めたいというのが縄文時代の信仰です。縄文人は自然界の噴火や地震など自然災害を体験するなかで、自然は人の命を奪う存在である反面、命奪う存在でもあるという自然に対する

縄文時代の信仰は、主に狩猟・漁猟・採集生活を基盤としていて、特に自然環境には大きな影響を受けていました。原始的な農耕では、風や雨、日照りなど自然災害や病虫害には無力に近く、人々は神霊に助けを求めたいというのが縄文時代の信仰です。縄文人は自然界の噴火や地震など自然災害を体験するなかで、自然は人の命を奪う存在である反面、命奪う存在でもあるという自然に対する

縄文時代、その火を利用して土器が作られました。土から水の漏れない土器を作り出したという事は画期的なこと、人類が初めて手にした化学変化を利用した初めての産物でもありました。

縄文時代、その火を利用して土器が作られました。土から水の漏れない土器を作り出したという事は画期的なこと、人類が初めて手にした化学変化を利用した初めての産物でもありました。

縄文時代、人間は自然に抱かれ、自然と共に生きてきました。その中で動物はペットや食料、労働力になるなど常に人間と関わっていました。五穀豊穡や雨乞い、厄除けなど様々な祭祀にも、様々な動物が登場します。日本最古の家畜は犬。

縄文時代の信仰は、主に狩猟・漁猟・採集生活を基盤としていて、特に自然環境には大きな影響を受けていました。原始的な農耕では、風や雨、日照りなど自然災害や病虫害には無力に近く、人々は神霊に助けを求めたいというのが縄文時代の信仰です。縄文人は自然界の噴火や地震など自然災害を体験するなかで、自然は人の命を奪う存在である反面、命奪う存在でもあるという自然に対する

縄文時代、その火を利用して土器が作られました。土から水の漏れない土器を作り出したという事は画期的なこと、人類が初めて手にした化学変化を利用した初めての産物でもありました。

縄文時代、その火を利用して土器が作られました。土から水の漏れない土器を作り出したという事は画期的なこと、人類が初めて手にした化学変化を利用した初めての産物でもありました。

縄文時代、人間は自然に抱かれ、自然と共に生きてきました。その中で動物はペットや食料、労働力になるなど常に人間と関わっていました。五穀豊穡や雨乞い、厄除けなど様々な祭祀にも、様々な動物が登場します。日本最古の家畜は犬。

縄文時代の信仰は、主に狩猟・漁猟・採集生活を基盤としていて、特に自然環境には大きな影響を受けていました。原始的な農耕では、風や雨、日照りなど自然災害や病虫害には無力に近く、人々は神霊に助けを求めたいというのが縄文時代の信仰です。縄文人は自然界の噴火や地震など自然災害を体験するなかで、自然は人の命を奪う存在である反面、命奪う存在でもあるという自然に対する

縄文時代、その火を利用して土器が作られました。土から水の漏れない土器を作り出したという事は画期的なこと、人類が初めて手にした化学変化を利用した初めての産物でもありました。

縄文時代、その火を利用して土器が作られました。土から水の漏れない土器を作り出したという事は画期的なこと、人類が初めて手にした化学変化を利用した初めての産物でもありました。

縄文時代、人間は自然に抱かれ、自然と共に生きてきました。その中で動物はペットや食料、労働力になるなど常に人間と関わっていました。五穀豊穡や雨乞い、厄除けなど様々な祭祀にも、様々な動物が登場します。日本最古の家畜は犬。

縄文時代の信仰は、主に狩猟・漁猟・採集生活を基盤としていて、特に自然環境には大きな影響を受けていました。原始的な農耕では、風や雨、日照りなど自然災害や病虫害には無力に近く、人々は神霊に助けを求めたいというのが縄文時代の信仰です。縄文人は自然界の噴火や地震など自然災害を体験するなかで、自然は人の命を奪う存在である反面、命奪う存在でもあるという自然に対する

縄文時代、その火を利用して土器が作られました。土から水の漏れない土器を作り出したという事は画期的なこと、人類が初めて手にした化学変化を利用した初めての産物でもありました。

縄文時代、その火を利用して土器が作られました。土から水の漏れない土器を作り出したという事は画期的なこと、人類が初めて手にした化学変化を利用した初めての産物でもありました。

縄文時代、人間は自然に抱かれ、自然と共に生きてきました。その中で動物はペットや食料、労働力になるなど常に人間と関わっていました。五穀豊穡や雨乞い、厄除けなど様々な祭祀にも、様々な動物が登場します。日本最古の家畜は犬。

縄文時代の信仰は、主に狩猟・漁猟・採集生活を基盤としていて、特に自然環境には大きな影響を受けていました。原始的な農耕では、風や雨、日照りなど自然災害や病虫害には無力に近く、人々は神霊に助けを求めたいというのが縄文時代の信仰です。縄文人は自然界の噴火や地震など自然災害を体験するなかで、自然は人の命を奪う存在である反面、命奪う存在でもあるという自然に対する

縄文時代、その火を利用して土器が作られました。土から水の漏れない土器を作り出したという事は画期的なこと、人類が初めて手にした化学変化を利用した初めての産物でもありました。

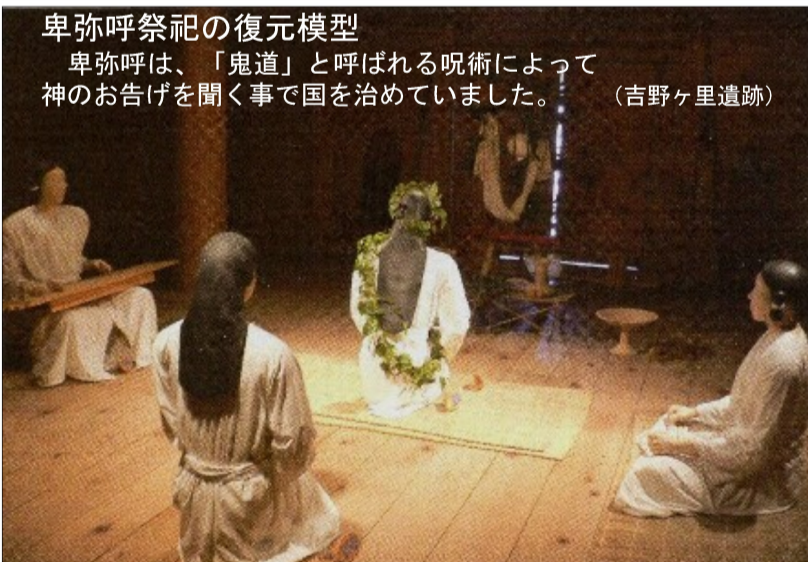
縄文時代、その火を利用して土器が作られました。土から水の漏れない土器を作り出したという事は画期的なこと、人類が初めて手にした化学変化を利用した初めての産物でもありました。

縄文時代、人間は自然に抱かれ、自然と共に生きてきました。その中で動物はペットや食料、労働力になるなど常に人間と関わっていました。五穀豊穡や雨乞い、厄除けなど様々な祭祀にも、様々な動物が登場します。日本最古の家畜は犬。



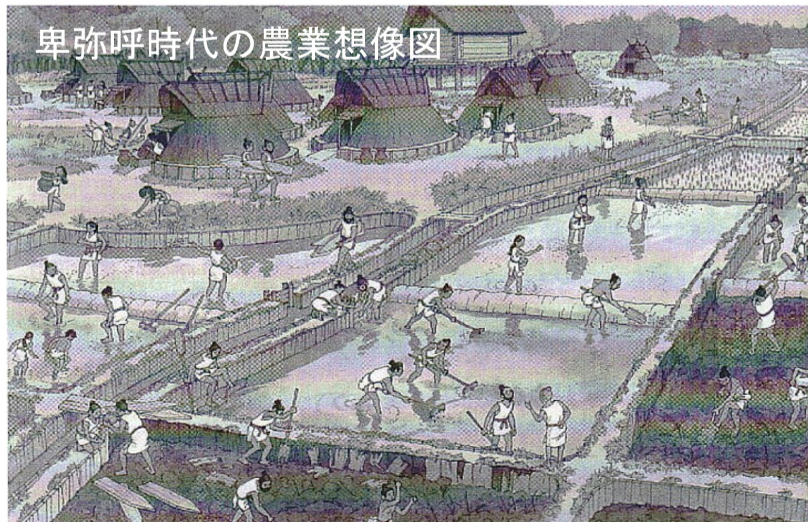
縄文人の信仰

この画像は、三島市千枚原遺跡から発見された居住跡を元にして、当時の暮らしと信仰の様子を再現したものです。〔広報みしま〕平成12年1月1日号より引用



卑弥呼祭祀の復元模型

卑弥呼は、「鬼道」と呼ばれる呪術によって神のお告げを聞く事で国を治めていました。(吉野ヶ里遺跡)



卑弥呼時代の農業想像図